



\\ 公務員を目指している就職氷河期世代の方へ! //

新たなステージに
チャレンジしてみませんか?

経験者採用制度

港区職員採用案内





特別区では、**経験者採用試験を通じて**、就職氷河期世代の方を含め、幅広い人材が受験できる制度となっています。今回は、就職氷河期世代の方々に、港区職員として働く魅力を知っていただけるよう、いま港区で活躍する就職氷河期世代の職員の声をご紹介します。



採用
年度

令和6年度

所属 会計室

大学等の卒業後から入区前までの ①職務経歴

②当時の就職活動の状況 ③当時自身が働く上で目指していた将来像

- ① 卒業後、地元の自治体に入職しましたが、身内の介護があり離職しました。その後仕事量を少しずつ増やし、直近では港区内の団体で正規職員をしております。
- ② 自身の経験もあり、ケアラー支援に携わりたいという思いから、再び行政を目指し退職をし、準備期間を経て試験に臨みました。
- ③ ケアラーとしての経験を活かし、支え手であるケアラーが少しでも辛い思いをしないで済むような社会の形成に携わりたいと考えていました。

特別区の採用試験を受験した経緯と港区を志望した理由

港区内の団体勤務であったことから、港区に馴染みがありました。また比較検討するなかで、港区で行われている介護サービスに特色があり、素晴らしいものだと感じたからです。

港区職員として働いてみての感想

現在、自分が思い描いていた仕事とは異なる部署に配属になりましたが、公務の仕事はどれもが区民の皆様に繋がるものですので、誠心誠意尽力していくつもりです。

受験者への一言(応援メッセージ)

年齢を重ねてきたからこそ、経験してきたものもありますし、幾つにもなっても新しいことは始められます。倍率や年齢で諦めずチャレンジしてほしいと思います。



採用
年度

令和3年度

所属 企画経営部
企画課

大学等の卒業後から入区前までの ①職務経歴

②当時の就職活動の状況 ③当時自身が働く上で目指していた将来像

- ① 再生可能エネルギー分野の設計開発職・外資系メーカーでの自動化エンジニア
- ② 氷河期の実感は特になく、やりたい仕事に就けていた。
- ③ 自分が大学・大学院で学んだ知識をいかに世の中の役に立てるか、また働きながら自分が日々成長でき、技術で世の中を牽引できる人物を目指していた。

特別区の採用試験を受験した経緯と港区を志望した理由

技術者ではなくなるものの、行政で働くということは他のどの仕事よりも直接的に世の中の役に立つと感じながら働けると思った。また、民間企業と違い営利目的ではないため、本当に自分が正しいと思うことができると思った。その中で自分の環境分野という専門性を活かすには経済活動の活発な港区が良いと思い志望した。

港区職員として働いてみての感想

システムを扱う部署に配属され、ひとつひとつのプロジェクトで発生する費用が高額であり、区を代表して執行していると考ええると責任感も大きく、その分やりがいや達成感も非常に大きい。システム(DX)分野のみならず、港区役所は様々な分野で先行している自治体であるため、他の自治体を牽引するような立場で仕事に取り組んでいきたい。

受験者への一言(応援メッセージ)

経験者採用はこれまでの経験や学歴は一切関係ありません。『これまで』よりも『これから』のみなさんが大切です。港区に採用されたらこういうことをやりたい、こうなりたい、というみなさんの思いを純粹に面接でぶつけてみてください。それが一番のPRになると思います。ぜひ一緒に働きましょう。

※所属は、全て採用時の名称です。



採用
年度

令和5年度

所属 芝地区総合支所
区民課

大学等の卒業後から入区前までの ①職務経歴

②当時の就職活動の状況 ③当時自身が働く上で目指していた将来像

- ① 大学卒業後、平成15年度から、飲食小売サービス業の会社に就職して、複数店の店舗責任者として働いてきました。
- ② 大学院進学を考えていましたが、公務員試験や企業の採用が終了した頃、急な事情により前職に就職しました。
- ③ 私は店舗責任者として、店舗の売上向上により、会社に貢献していきたいと考えていました。

特別区の採用試験を受験した経緯と港区を志望した理由

かつて、年齢制限のあった特別区経験者採用を受験しましたが合格出来ませんでした。しかし、就職氷河期が受験できる採用試験制度を港区の広報誌で知り、再度挑戦し、採用して頂くことが出来ました。港区を志望した理由は、私自身港区で生まれ育ち、港区の公共サービスを受けてきた経験を踏まえ、区民第一の施策を提案したいと考えているからです。

港区職員として働いてみての感想

私は、現在、区民課戸籍係で働いています。戸籍係の仕事は、区民等の出生から死亡までを公証していく業務で、公務員にしか出来ない大切な仕事です。また、戸籍という専門性の高い知識を、研修や係全体で勉強し続けていくことが出来るやりがいも感じています。そして、学んだ知識を、区民等への適切なサービスや相談等に活かせるところに魅力を感じています。

受験者への一言(応援メッセージ)

私の座右の銘は七転八起です。私自身何度も失敗しましたが、家族等のサポートにより、第一志望の港区に入区することが出来ました。仕事や育児等をしながら、採用試験を受験すること自体厳しいと思います。しかし、自分のやりたい業務や港区職員として働きたい等の強い気持ちを持って、採用されるまで挑戦し続けて下さい。



採用
年度

令和4年度

所属 産業・地域振興支援部
税務課

大学等の卒業後から入区前までの ①職務経歴

②当時の就職活動の状況 ③当時自身が働く上で目指していた将来像

- ① ずっと接客業をしていました。
- ② 職場の同僚から採用試験の話聞き、受けてみようと思いました。
- ③ 地域住民に信頼され愛される職員。

特別区の採用試験を受験した経緯と港区を志望した理由

今までずっと接客業をしてきました。接客は自分に合っていました。どうしても企業利益優先の対応を意識せねばならず、葛藤がありました。区職員になれば真に区民の方を思って仕事ができると思い受験しました。港区は、全国有数のオフィス街と繁華街、住宅街を持っています。様々な方と接することができ、刺激を受けながら自分を高められると思いました。

港区職員として働いてみての感想

就職してみると想像以上に大変で、税務課におけるこの2年間は慣れるのに必死でした。ですが、大変な業務であることは、それだけ重要であり、区民のみならず役に立つ仕事でもあります。誰かの役に立つ仕事。これを喜びとして日々業務に励んでいます。

受験者への一言(応援メッセージ)

私たち氷河期世代は、当時仕事を選ぶことが難しく、収入や条件から選ぶしかなかった人が多かったと思います。就職氷河期世代が受験することができる採用試験は、そんな私たち世代にもう一度職業選択の機会を与えてくれます。ぜひたくさんの方にチャレンジしていただきたいと思います。